

書籍紹介

地球全史スーパー年表

清川昌一・伊藤 孝・池原 実・尾上哲治 [著]
日本地質学会 [監修]

岩波書店
2014年2月18日第1刷発行, 3月17日第2刷発行
B5判解説書 24ページ, カラー年表 (364 mm × 1030 mm)
ISBN-10: 4000062506
ISBN-13: 978-4000062503
価格: 1300円 + 税

年表というと小中高の教科書に掲載されているような日本史や世界史の歴史年表が直ぐに思い浮かぶと思うが、実はこの限りではない。我々地質調査総合センターの業務の一つとして、地球史の編纂がある。例えば、地質標本館の兼子尚知氏等が編集し、館の普及イベント等で配付している「地質標本館所蔵標本化石アトラス」という古生物の進化に着目したポスターサイズの地質年表については、何かでご覧になったことがある読者も多いことと思う。アメリカ地質学会の出している「GSA Geologic Time Scale ver. 4.0」(<http://www.geosociety.org/science/timescale/timescl.pdf> 2014/12/25 確認) やオランダのエルゼビアの出版している「The Geologic Time Scale 2012-Volume Set, 1st Edition (ISBN :9780444594259)」は、世界のスタンダードとして使用されている。

本稿において紹介するのはこれと同じカテゴリーの地質年表であるが、世界の太古代～原生代を研究対象として地球史を研究している九州大学の清川昌一氏等が企画し、敢えてスーパーという冠を付けていることから、従来の年表を超越した内容であることは容易に想像できた。2014年2月18日に、清川氏らのグループが編纂した「地球全史スーパー年表」(以下、スーパー年表) が岩波書店から発刊され、その売り上げが好調のため2014年3月17日に第2刷りが発刊されたとお聞きして、早速つくば市内の書店で購入し中身を拝見させて頂いた。

スーパー年表は、B5判のソフトケースに折りたたまれて入れられており、24ページの解説書もこれに併せて納



められている。年表を取り出して広げると、横幅364 mm, 縦1030 mmと縦に長く、これが縦に4つ折り、横に2つ折りされている。10列に分けられた年表には横軸に年代がとってあり、その下に時代名と地球史イベント、さらにその下には海水準変動曲線、酸素同位体組成曲線、平均気温からの偏差曲線のグラフが添付されている。従来の地質年表であるならば、地球誕生から現在への道筋を同じ時間スケールで時系列的に描かれるのが一般的であろう。ところがこのスーパー年表では、横書きの年表が10列、縦に並べられている。但し、それぞれの年表の右端は常に現在という規則性があり、横軸の年代スケールのみが大きく異なる。即ち、時間スケールを変えながら、上下の年表を見比べられるように工夫されているのである。これらを、著者等は顕微鏡を用いた鏡下観察に例えて、レンズ1～10と表現している。

最上位のレンズ1(左端が150億年前)は、宇宙の始まりから現在までの「宇宙史」を示している。

地質時代は、大きく6本のレンズを通して描かれている。レンズ2(左端は50億年前)は「地球史」を、レンズ3(左端は6億年前)は「顕生代」を中心に、レンズ4(左端は7000万年前)は「新生代」を中心に、レンズ5(左端は600万年前)は「人類時代」を中心に、レンズ6(左端は100万年前)は「氷河時代」を中心に、レンズ7(左端は

20万年前)は「最終氷期」を中心に、それぞれ表現されている。

我々が通常歴史学で学ぶ、先史～歴史～近現代もスーパー年表には含まれており、3つのレンズを通して表示されている。レンズ8(左端は2万年前)は「先史・文明時代」を中心に、レンズ9(左端は2000年前)は「歴史時代」を中心に、レンズ10(左端は200年前)は「近現代」を中心に描かれている。

このように下位の階層ほど時間スケールが小さく表現されている構造こそが、従来の地質年表の表現とは大きく異なるスーパーな所以である。例えば、私たち地質のような研究者が、市民巡検や普及講演会等において、「12.5万年前の下末吉海進の時代は・・・」とか「1億年前の白亜紀という時代は・・・」などと口に出した途端に、聴衆が面食らった顔になるといったことはよくある話である。そのような、一般市民がなかなかイメージしにくい長い時間スケールを、一般の人にも理解しやすいようにという意図で著者が考案したのが、このレンズという表示法と言えよう。

付属する24ページの解説書には、地球史が古い時代から順に各レンズに併せて簡潔に記載されており、世界中の美しい露頭の写真や時代別の大陸分布図がカラーで示されている。巻末には参考文献もリストアップされており、読

者が更に知識を深めることもできる。但し、地球史を編纂する上で古生物は最も重要な証拠と言えるが、化石に関する写真やイラストが無い点はやや不満が残る。私見では、この解説書の内容を年表に取り込んで一体化する方が、理解しやすいと思う。もちろんその為には年表の大きさを、現在のサイズの倍に拡大するか、白紙になっている裏面の活用の必要もあるが。

このスーパー年表は、“覚えるためのものではなく、使い倒し、考え、遊ぶための年表である”、“これを活用して、地質学の醍醐味である「時空を自在に飛ぶ」感覚を、ぜひ味わっていただきたい”と著者らは述べている。本稿で紹介したスーパー年表は、世界約60カ所の地球史の露頭写真が掲載された「地球全史 写真が語る46億年の奇跡」(ISBN978-4-00-006246-6 C0044)、その撮影旅行の記録を記した『地球全史の歩き方』(ISBN978-4-00-006248-0 C0044)に続くシリーズ第3弾であり、これら2冊の本を併せて読むと、清川氏がこれまで世界を旅して見てこられた宇宙の誕生から現在までのシームレスな地球史の一端を、我々も理解することができることであろう。

なお、本稿の粗稿は著者の一人でもある茨城大学教育学部の伊藤 孝教授にご校閲頂いた。ここに記して御礼申し上げます。

(産総研 地質情報研究部門 七山 太)